

ゆうこみやき。



なるほどアイヌ文化トーク ソッコ de ソッコ

アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた
本田優子(札幌大学教授)と
村木美幸(アイヌ民族博物館専務理事)が、
その魅力をソッコ(=お便り)形式で語り合います。



今月のテーマ **フンペ(クジラ)**



イラスト/安田千夏

先日、スーパーでクジラベーコンを見た
かけたの。昔はよく食べましたよね。ク
ジラはアイヌ語でフンペ。フンペの滝や
フンペサバ(頭)、フンペスマ(岩)などクジラに
まつわる地名って道内各地にあるよね。

噴火湾沿岸の長万部、虻田では、伝統的な漁
法で体長二四メートルもあるイワシクジラを獲
った記録が。四メートル位の舟、十数隻で、六十
本ものキテ(離頭鰭)を打ち込み、浮き沈みする
クジラに一昼夜も舟を引き回されたというから
壮絶ですよね。でも、クジラの利用の多くは浜に
打ち上がった寄りクジラだったとのこと。

寄りクジラの踊り、フンペリムセも各地で伝承
されているよね。白老のフンペリムセは寸劇のよ
うな踊り。目の見えない老婆がクジラを見つけ
フンペヤンナー(クジラがあがったよ〜)って村
人に知らせるの。そうするとサラニア(編袋を
担いだ村人達が歌いながら登場して肉をいただ
くの。カラスも肉のおこぼれを貰いに「ワクワク、
ワクワク」とうるさく鳴いてクジラにまとわりつ
く様子がちよつと滑稽。♪フンペヤンナー フンポ
ーエ、ピッタ タフネ フンポーエ、インカンノ ウタ
ラ フンポーエ、サッパー インカラ フンポーエ、ク
ジラがあがったよ、浜のほうで音がする、目の見
えるものたちは、いつてみなさい♪

優子さん、フンペリムセって楽しいよね。



うん、楽しいね。だから私が平取町二風谷で
暮らしていた頃も、平取アイヌ文化保存会の芸
能の一つとして、寸劇のようなクジラの踊りはよ
く踊られていましたよ。でも、「フンポーエー」は
同じだけど歌詞はちよつと白老と違っていろいろ。
「目の見える人たち、浜におりてください。ゴミ
だろうか、クジラだろうか、あがっているよ。目
の見える人たち、浜におりてください」。そう言
いながら、目の見えないおばあさんが、クジラを
杖でコンコン叩いて探りながら周りをゆつくり
回るの。カラスたちは、最初は手を叩きながら
うさぎ跳びで「コンコン」出てきて、途中から群
がって肉をむしる格好をするのね。

面白いのは、平取では、途中でカラスたちがク
ジラを持ち上げて、最後にポーンって放り投げる
の。骨になったクジラを海にお返しすること
かしら？昔は、豪快に戸外の雪の上に投げて大喝
采だったらしいけど、さすがに私が暮らしていた
頃には、あらかじめ離れた所にお布団やマットを
準備しておいて、そこめがけてポーン！

ところが、そうなるとあまりに立派な体格の
クジラは持ち上げられないから、どうしてもスリ
ムな人がクジラ役になつちやうだよ。ある時、
それを見た他の地方のおばあさんが思わ
ずこつと言いました。「おたくのクジラは
なんだか脂身が少なそうだねえ」笑。

